

『時事直言』 No.1420 2020年9月14日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[twitter 日本語] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[twitter 英語] [T_Masuda_eng/](https://twitter.com/T_Masuda_eng/)

[instagram] [t_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)

[Youtube] [増田俊男チャンネル/](https://www.youtube.com/channel/UC...)



時事評論家 増田俊男

安倍総理辞任のもう一つの真相

★本日の増田俊男の「目からウロコのインターネットセミナー」無料配信をご覧ください。

<http://movie.masuda-toshio.com/>

私は9月9日の本誌で安倍辞任は、8月24日歴代内閣最長記録を達成したのを機に、来年10月20日の衆議院議員任期満了による総選挙による第三次安倍内閣再開までの1年間の休息と準備の為であって、そのことは安倍を支えてきた麻生財務大臣、副総理、二階幹事長と菅官房長官の密約、又は阿吽の合意であると述べた。

また安倍の憲法改正への執念は、たかが病気などで揺らぐものではないとも述べた。

トランプ、習近平、プーチンなどの世界の巨物と渡り合える器は日本には安倍をおいて他に居ないのは誰しも認めるところ。

自民党の党是であり、安倍が政治生命をかけている憲法第9条改正は公明党との連立では不可能だから、どうしても自民党は単独で国会で絶対多数を取らなくてはならない。

その為には安倍は来年10月までに病を克服し強健な肉体を取り戻し、「神が死ねというまで私の命を国民の皆様に捧げます」と全国津々浦々を駆け回る以外にない。

自民絶対多数なくして憲法改正無しである。

公明党は安倍の辞任で来年10月以降は自民との連立は終わりになるから、次の野党連合でも視野に入れておくべきではないのか。

他の野党は来年10月で終わりだろう。

実は安倍が辞任を決断したもう一つの大きな理由がある。

アメリカによって日米安保というピンに入れられ、憲法第9条という蓋をされている日本の総理大臣がアメリカに断ることなしに勝手に突然辞任が出来るとでも思っているのかと言いたい。

安倍はトランプに辞任の理解を得るにあたり、トランプの為にやるべきことをやっている。

一つは違憲とされていた集団的自衛権を合憲にして、日米安保を片務条約から双務条約に是正した。

「アメリカはもはや世界の警察官ではない」と宣言しているトランプにとって喜ばしいことだ。

もう一つは最近のイージス艦配備撤回で敵地攻撃を可能にし、自衛隊専守防衛、米軍先制攻撃の米軍と自衛隊の役割分担を解消した。

日本と韓国からの米軍撤退を進めるトランプにとって喜ばしいことである。

安倍が外務省、防衛省の頭越しにイージス艦地上配備を撤回したことでアメリカの軍事産業が受けるはずの約 6,000 億円が消えたのだから実利を重んじるトランプは安倍に激怒して報復をしても不思議でないのに文句一つ言わなかった。

トランプの敵は戦後から今日までアメリカを支配してきた軍産複合体(軍産)であり、日本の外務省も自衛隊も今なお追従している。

執拗に「安倍降ろし」を繰り返してきたのは軍産に追従する官僚とマスコミである。

安倍は軍産に 6,000 億円の被害を与え、思いやり予算を増やしてカバーしようとしている。

つまりトランプの敵にダメージを与えトランプ(米政府)への思いやり予算増額をしようとしているのである。

だからトランプは安倍のイージス・アショアのキャンセルに文句を言わないのである。

これから 11 月に向けてトランプは選挙目当てに対中経済制裁と在中米ハイテク企業に帰国命令同然の発言を繰り返すと同時に対中軍事圧力を強化する為、日本を中心とした対中軍事包囲網を強化する発言を繰り返してくる。

つまりトランプは、どうせ日本に出来ないことは分かっているにも安倍に対中制裁の無理難題を押し付けてくるのである。

大統領選まで安倍が矢面に立っていると、どっちに転んでも安倍は批判される。

トランプの無理難題に消極的だと反中の官僚と主流マスコミから批判され、積極的だと親中派や左翼系マスコミに叩かれる。

長過ぎからの飽きと河合議員法務大臣任命責任などで、ただでさえ支持率が落ちている時に、どうせ言うだけで出来っこないトランプ演技の矢面に立たされたのではたまらない。

その為にこそ、いくらトランプがわめいても「糠に釘」の菅内閣が必要なのだ。

トランプにしても日本には話が出来る相手は安倍以外に居ないから、迷惑がかかる選挙中は逃げてもらって、第二期目 2021 年以降に安倍に帰ってきてもらいたい。

それまで田中真紀子の毒舌がいう「生ごみ専用の缶の蓋」の菅が必要なのである。

2021 年 10 月 20 日、安倍がどんな「登り龍」を演出するか楽しみである。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。